

## 自主的環境保全活動の取り組み状況

(事業所名) 三菱電機(株) 高周波光デバイス製作所

### 三菱電機北伊丹地区環境方針

#### 半導体・デバイス事業本部 環境基本方針

当社は、「環境ビジョン 2050」における「大気、大地、水を守り、心と技術で未来へつなぐ」の環境宣言のもと、環境問題につながる様々な要因の解決にむけて、一人ひとりの想いをつないで、新しい価値の創出に挑戦し、持続可能な未来作りを目指しています。

25年度は、「環境計画 2025」の最終年度です。次世代に向けたイノベーションに挑戦し、「製品使用時の温室効果ガス削減貢献量向上」と「自社温室効果ガス排出量削減」双方での温室効果ガス排出量削減を進め、全社の環境活動対策を牽引していきます。

##### (1) 事業を通じた環境課題の解決

- ・半導体事業の特徴である、「省エネルギー」「省資源」に配慮した高性能・高品質の製品・サービスを提供することでイノベーションを促進し、製品使用時の温室効果ガス削減貢献量向上を通じて、「環境ビジョン 2050」の目指す気候変動対策に貢献していきます。政府の推し進める 2050 年カーボンニュートラルを踏まえたグリーン成長戦略においても、半導体・情報通信産業は 2040 年での達成を目標としており、これらの流れを後押しし、事業の成長をもって社会の脱炭素化に貢献していきます。
- ・事業活動における環境負荷の低減に努め、ブレイクスルー技術やソリューションの開発により、2030 年度に自社温室効果ガス排出量実質ゼロを目指した削減活動を推進します。

目標 **自社温室効果ガス排出量 (25 年度) : 130,000t-CO2 以下**

- ・プラスチックを始めとした資源の有効活用による資源循環への貢献、廃棄物低減を図ります。
- ・再利用水の利用促進、節水の推進を継続し、水資源の有効利用に努めます。

##### (2) 新しい価値観・ライフスタイルの発信

- ・「自然と触れ合う活動」を通じて、従業員やその家族に「生物多様性」に配慮する環境マインドを育成すると共に、地域社会と連携して社会貢献活動の輪を広げていきます。
- ・ホームページや展示会を通じ、CSR の視点で環境への取り組み状況を社会に開示し、社会との相互理解に努めます。

##### (3) 環境コンプライアンスの徹底と環境経営基盤の強化

- ・環境関連法規を十分に理解した活動の展開をもとに、異常の早期発見と迅速な初動を行うことで、重大不具合発生ゼロを達成します。

目標 **環境重大不具合発生件数ゼロ**

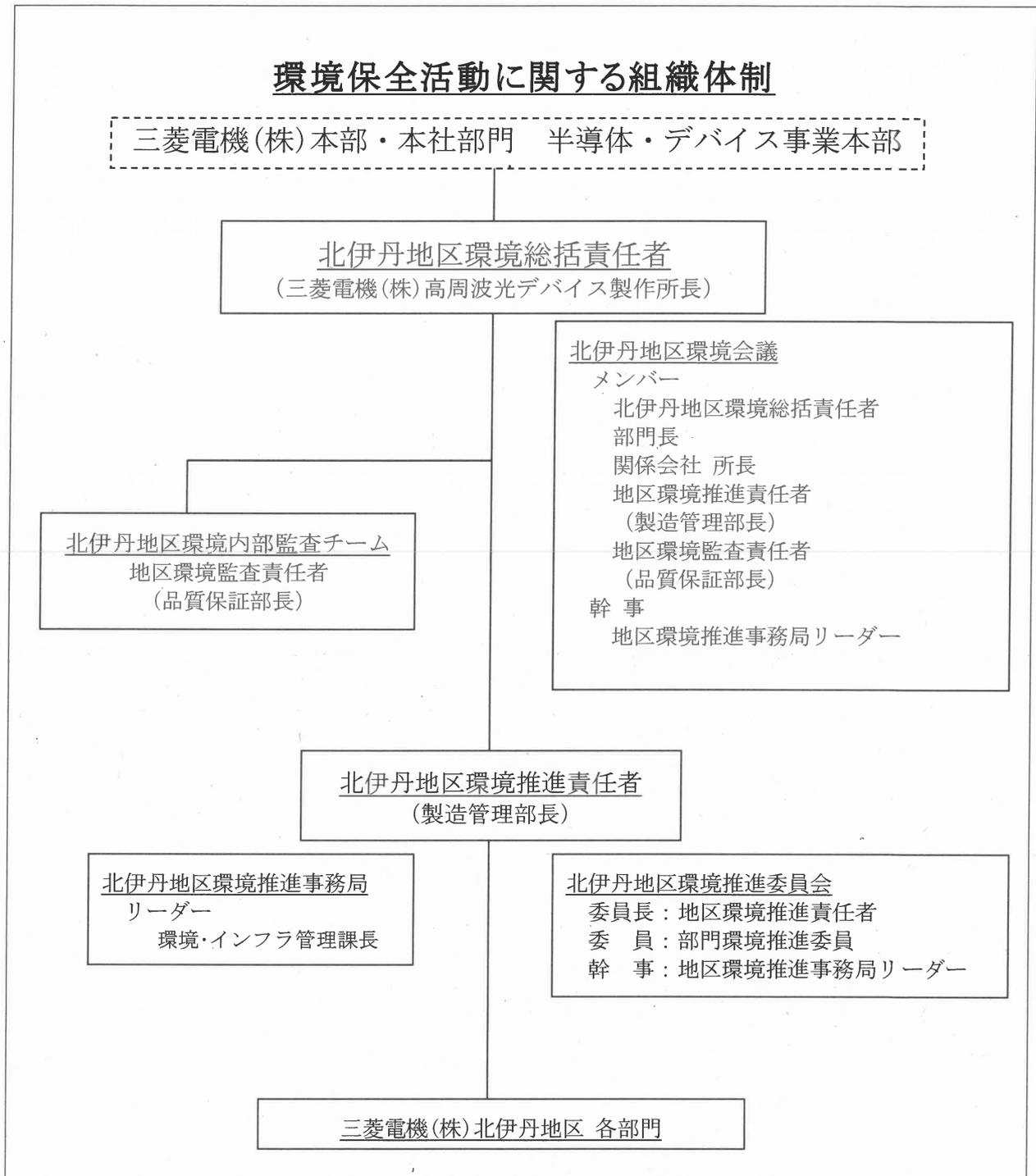
- ・環境コストを十分に意識した事業運営に努め、再生可能エネルギーの活用や拡大を推進します。
- ・当社製品に含有する化学物質の把握に努め、人体や環境に悪影響を及ぼす有害物質の代替化や削減を推進します。
- ・非財務情報法定開示への対応として、各種環境データの適時適切な開示に向けた収集・算定体制の整備を推進します。

2025 年 4 月 1 日

半導体・デバイス事業本部長

竹見政義

環境保全活動に関する方針等  
別紙2



環境保全対策の実施状況

別紙3

項目	令和6年度の取組結果	項目	令和7年度の取組計画
カーボンニュートラル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エネルギー起源CO2排出量削減 排出総量目標:22,178t-CO2以下を計画 排出総量実績:21,353t-CO2</li> <li>2. 温室効果ガスの排出量抑制 排出総量目標:1,100t-CO2eq.以下を計画 排出総量実績:933.4t-CO2eq.</li> <li>3. 新製品における製品使用時のCO2排出量、削減貢献量の改善 ・低消費電力となる新製品を複数種開発中。</li> </ol>	カーボンニュートラル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エネルギー起源CO2排出量削減</li> <li>2. 温室効果ガスの排出量抑制</li> <li>3. 新製品における製品使用時のCO2排出量、削減貢献量の改善</li> </ol>
事業活動における環境貢献目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資源投入量削減 ・滞留り改善により約3.5kgの資材投入量を削減 ・総合コストの改善 ・製品廃却率低減</li> <li>2. 資材調達における環境活動 ・サプライヤーの環境活動への取組み調査と改善サポートの実施。</li> <li>3. 地域貢献活動(里山保全活動・桜を育てる会) ・新入社員研修の一環として、やしろの森公園にて里山保全活動を実施(4月)。 ・瑞ヶ池公園の桜を育てる会の活動を実施(6月、10月、2月)。</li> <li>4. 近隣とのコミュニケーション ・近隣各社、公共団体及び自治会との情報交換会を実施(全7回)。 ・会社周辺清掃を実施(6月、9月)。 ・アオノリュウゼツラン見学会実施(7月)。 ・伊丹市生物多様性交流フェスティバルへの参加。</li> </ol>	事業活動における環境貢献目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資源投入量削減</li> <li>2. 資材調達における環境活動</li> <li>3. 地域貢献活動(里山保全活動・桜を育てる会)</li> <li>4. 近隣とのコミュニケーション</li> </ol>
事業所独自の環境に 関連する目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 危険物、有害物質等の適正管理による漏洩・流出防止 ・危険物倉庫/毒劇物倉庫の定期点検(1回/月)を実施。</li> <li>2. 水の有効利用・水使用量の把握 ・取水量:807,679m3(昨年度比:98.3%)</li> <li>3. 事業所内における野外活動の実施 ・所内の植栽に対して、プレートを設置(全30カ所)。植物の名称他、分類、1年間の平均CO2吸収量(参考値)を掲示した。</li> <li>4. 事業所の生物多様性保全活動の継続 ・「きたいいたみガーデン」(猪名の笹原モデル園)の維持管理として冬季前に切り戻し剪定を実施。 ・事業所内に自生する絶滅危惧IB類の「マツバラン」の保全と育成管理の実施。</li> </ol>	事業所独自の環境に 関連する目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境教育の実施</li> <li>2. 危険物、有害物質等の適正管理による漏洩・流出防止</li> <li>3. 水の有効利用・水使用量の把握</li> <li>4. 環境マイノイドの醸成(地区内の植栽調査実施)</li> <li>5. 事業所の生物多様性保全活動の継続</li> </ol>